

第 4 1 号

平成 16 (2004) 年 12 月吉日

発行 伊勢市国際交流協会

T E L 0596-21-5549

F A X 0596-21-0010

「フィロス」はギリシャ語で友情・友達の意

国際交流ボランティア活動 これまでの事とこれから

伊勢市国際交流協会 ボランティア運営委員長 柴原 道雄

国際化、情報化が進む中、国際交流の原点は「人」と「人」との心の交流であると感じています。お互いの習慣、文化を理解し、認め合うことによって心の交流が始まるのです。近い将来の近隣町村との合併による市民の交流を始め、普段の生活の中でも一人一人が国際化に適合し、市民が主役となった交流が進むよう、伊勢市国際交流協会を中心とした交流をさらに進めていきたいと考えています。

2005年は、伊勢市在住外国人との共生社会の実現のため、医療や防災、不就学児童・生徒の問題をはじめとした日常生活における多様な課題を解決するための取組を、行政、NPO、市民、在住外国人等の連携・協働を基本に展開。国際交流については住民相互の交流を中心とした事業を進めるとともに、地域における草の根の国際交流・協力活動が活発に行われるよう、民間団体、ボランティアなど様々な活動主体への支援や活動しやすい環境づくり。国際貢献については、その重要な担い手である市民各層の参加意識の醸成や人材育成、参加機会の充実をはかるなど、市民、NPO等による国際貢献活動への支援を拡充するとともに、行政が主体となった貢献活動を一層推進するための仕組みづくりに取り組む。以上の取り組みを新しい年へ向けて考えています。皆さんのお考えはいかがでしょうか！？

国際協力キャラバン in 伊勢志摩 ～ 国際協力に触れる 1 日～

11 月 14 日

於：伊勢市福祉健康センター

当日は J I C A 主催による交流会を上記の場所で開催しました。多くの国々から集まった 134 名の参加者があり、その日は当協会の世界の料理パーティーの協力による料理作りから始まり、参加者とともに料理を楽しんだ後、国際理解ゲーム、パネル・ディスカッションで世界を知る有意義な一日となりました。以下がその行事内容の一部です。

世界の料理パーティー 中国・フィリピン編

世界の料理パーティー世話人 中山 長子

“百人分の料理を作って”と言われ思わず「え！」と声を上げてしまいました。しかも2ヶ国の料理パーティーを同じ日に！でもやってみようとまずは講師探しから。お蔭様で会員の市橋さんの尽力で中国の呂さんとフィリピンのマルリンさんに決めました。早速料理の打ち合わせが始まりメニューは炸蝦、杏仁豆腐、ポークとチキンのマリネード煮こみ、ひき肉入りミニ春巻となりました。その後数回の打ち合わせ、予算の計上、広報での参加者募集、スタッフの決定等々を経て11月8日にスタッフ会議を持ちました。この日は思いがけずJICAの湯木さん、柴原委員長、池田課長、児玉さんも来て下さり、メニューだけを見て作った当日の料理を持ち寄り試食をしました。材料の分量や盛り付け、所要時間等に見当をつけ料理の分担も決める事が出来やっと見通しがついた感じがしました。買い物も百人分となると前日だけというわけにはいかずスタッフの方々と数回に分けて行いました。いよいよ当日を迎え30名が力を合わせて料理作りに取り組み11時半につつがなく完成する事が出来ました。スタッフをはじめ、当日の参加者、市民参画交流課の方々の協力があつて無事に楽しくこの時を迎える事が出来て安堵と感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして賑やかに会食がはじまり、気が付けば私の重かった肩の荷がずっと軽くなっていました。



参加者からの一言

本日の食事はとても美味しく、また、日本語教室で勉強した日本語を使ってみる場となりました。有難うございました。マイケル・キフル

今日の集いで私の伊勢市での生活体験が又ひとつ豊かになりました。こんなに大勢世界各地から伊勢に来ているとは思いませんでした。自分は商用で何度も当地へ来ていますが、このようにいろいろなことを知ることができるのはとても愉快的なことです。こういった催しを企画された伊勢市当局に対して感謝しています。マッフマン・メル

とても愉快でした。日本の皆さんが諸外国とその文化に対して接することが、全世界で人種や文化の差を越えた交流となる、このことがポイントだと思います。スクハール・ベルトランド(フランス)

この国際交流の機会をくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。非常に楽しかった経験です。勉強ができました。平和と共生のために、相互理解は大変重要だと思っております。日本と中国の友好のために何か役に立てばと考えています。王智 鵬(中国からの留学生)

心づくしの料理を頂きいろいろと話し合いができ有難うございました。ジョン・デニス

伊勢の地に来ての感想

呂 少強 氏

(当日の料理の講師を務めて頂きました)

私が子供を伴って中国上海から当地へ参りましたのは2001年の9月のことで、3年と3ヶ月になりようやく毎日の生活、仕事や日本語の勉強など慣れてきました。

伊勢市は日本全体としては中小都市というのでしょうか風光明媚で落ち着いた雰囲気で大都会特有の騒々しさはありません。伊勢神宮という全国でも最も知られたお社があって、毎年多勢の参拝客が観光をかねて訪れるほどです。お隣の鳥羽市もまた自然の風光に恵まれており、サイクリングで山頂からの眺めを楽しみ、海岸線とそれに連なる緑の樹林、また澄み切った大気の中に風景を満喫させてくれます。このような眺めは一望千里で見渡すと、ふっと俗世間を離れた感じになります。また海岸線の美しさも格別な情緒があります。仕事の休みなどを利用しての観光で心身の疲労も癒される思いです。

(原文中国語より 文責編集部)

日本語ボランティア養成講座

“困ったボランティアさん”から日本語ボランティアとは何かを考える

みえにほんごネットワーク代表 藤本 久司 氏

(現在三重大学人文学部常勤講師として留学生教育を担当、留学生の生活、学習等のサポートと上級日本語の指導および日本人学生に日本語表現法と社会学を講義)

12月伊勢市の「日本語ボランティア養成講座」の際、時間の関係でお話できなかったことの1つに上記のテーマがあります。よく言われていることや私の経験も加え、ここでは活動全般に関わるものをいくつか挙げます。異論もおありかと思いますが日本語ボランティアとは何かを考えるヒントにしていれば嬉しく思います。

自分の授業を見られることを嫌がる 例え自分の授業方法に自信が無い人が、逆に自信があっても見せ惜みする人など、でしょうか。専門家でも完全な授業は無いわけで、ましてプロではなくボランティアだから失敗例も遠慮なく見せ合い批評しあって皆で上手になっていく、という雰囲気教室全体にできるといいと思います。

学習者の好き嫌いを態度に表す 個人的な時間、気の合う人と付き合うのは誰でも無論問題ないのですが、親しさをそのまま授業に持ち込むのはダメ。教室活動で関わるときは学習者に同じような距離でいることが大事です。

語学ができることを盛んにPRする 私の関わる教室も外国語堪能な日本人スタッフが多くその話す言語も様々ですが、授業時間以外は問題なく自由に話しています。他のメンバーの鼻につくつかないかは、ボランティア以前の日常の態度、人間性の問題のような気がします。

外国語の学習のため外国人の先生を探している 悪いわけではないでしょうが、本来の目的とは違いますから、個人として日本語ボランティアの役割をしっかり果たしてくれる意思があるかどうかによります。また、たぶん行為自体は活動時間外で個人的なことなので禁止も監視もできないでしょうが、日本語ボランティアをやっているということを理由に、個人的な外国語学習も安価または無料で教えてもらう、などということは絶対すべきではないと思います。

自分の仕事のお客さんを探している 自分がやっている習い事教室やスポーツ教室の生徒募集、商品の売り込み、あるいは個人的な日本語レッスンの勧誘など、自分のビジネスに活かすため学習者でお客さん探しをしている人がいます。伊賀の教室では規則で政治・宗教とともに営利を目的とする勧誘は時間外、退会後も含め全面的に禁止しました。一方で自分の会社の市民向けバザーなど、学習者が選択自由で有益無害な情報は流してもらっていいことにしています。どういうことをスタ

ップに認めていくかはボランティア団体の性格付けに関わる重要なポリシーです。

ボランティアメンバーの中で自分の社会的地位を顕示する ボランティアはいわば「新時代の近所付き合い」で、職業や社会的地位は関係ありません。年齢も関係なく、学生も先生も社長も対等です。男女も平等。ボランティア活動でも日頃の地位を誇示したい人は、そもそもボランティアの意味を理解していない人ということになります。私たちの仲間に創立からのメンバーの年配男性がいました。2年くらいして懇親会のときふとしたきっかけでその人が某有名会社の社長さんだとわかりました。気さくに細かい仕事をしてくれる日頃の態度から皆改めて敬意を抱くと共に、ボランティアのあるべき姿を再認識した次第です。

ボランティアの中で気の合う人とだけのグループを作る 視野が狭い人に多いような…。単なる趣味の会ではなく、同じ問題意識と達成目標を持った人々が1つの活動に集まっているという自覚を忘れないでほしいものです。

日本人と付き合いのが苦手で外国人と関わることを心のよりどころにしている 職場、近所、又は家族の中など人間関係で悩み多きタイプの人でしょうか。外国人は視点、価値観、マナーなど日本人と違うことも多く、いわば白紙の状態に関われる相手。自分に対する評価基準が日本人と異なり、また日本語習得で自分が必要とされる相手でもあり、日本人より安心を覚えるのかも知れません。心のよりどころを外国人に求めることがけっして悪いということではありません。願わくばこういうタイプの方は、外国人との付き合いから得た自信や経験を、日本人との付き合いにも活かしていただきたいと思います。

国際理解講座

「武器なき支援を - イラクの子どもたちの命を救うために - 」

セイブ・イラクチルドレン・名古屋 副代表 山縣 忍 氏 をお招きして
2004年11月7日(日)いせトピア 学習室2 29人参加

今年度1回目の国際理解講座は、イラクの医療事情とセイブ・イラクチルドレンの活動について、パソコンのデータをスクリーンに映していただきながら、お話をうかがいました。

セイブ・イラクチルドレンの活動の1つは、「御用聞き」

はじめに、爆撃を受けたイラクの病院の写真を見せていただきました。NGOの援助で、保育器、ベッド、その他設備を整えることができた病院もありますが、全く援助が届かない病院もあります。壊れた保育器、ビニールしか敷かれていないベッド、不衛生な台所の写真は、とても医療ができる施設とは思えません。施設だけでなく、ガーゼ、消毒薬、外科薬も足りないところがあるそうです。

セイブ・イラクチルドレンは、現地の医師と連携して、必要なものを聞き、日本でそろえて、クウェート経由でイラクの地域へ届けます。クウェートからは、必ずイラク人が運びます。

アッパース君とイラク人医師の受け入れ

セイブ・イラクチルドレンは、もうひとつ大切な活動をしています。

イラクでは、今、白血病やガンを発病する子どもが急増しているというデータが出ています。

今年1月、白血病を患っている子ども、アッパース君と、2人のイラク人医師を、日本に呼びよせました。アッパース君の治療とともに、イラク人医師にも先端技術を身に付けてもらい、イラクに戻ってから役立ててもらおう為です。

国連による経済制裁のため、イラクでは、医療技術は遅れましたが、イラク人医師たちは、とてもレベルが高く、研究熱心だということです。貴重な研修期間に最大限のことを学ぼうと、大変ハードなスケジュールをこなされたそうです。

アッパース君は、名古屋での約10ヶ月の治療を終え、10月末にイラクへ帰国することができました。まだ完治していませんので、今後イラクで治療を続けるための薬や費用の援助を継続していくそうです。

患者を、たった1人でも、日本に呼び、治療することになったのは、たとえ1人でも、尊い命を救いたい、ということとともに、この病気は治る、ということを知ってもらい、希望を持ってもらう為だそうです。

なぜ、急に白血病やガンになる子どもが増えたのでしょうか？

これは、劣化ウラン弾が原因ではないか、と言われていました。劣化ウラン弾は、1991年の湾岸戦争で、米英軍が使用し、今回の攻撃でも、大量に使われました。

劣化ウラン弾は、破裂し激しく燃焼した後、微粒子となって、大気や土壌を汚染します。

劣化ウラン弾がイラクの人々の健康に影響しているのではないかと推測されていますが、イラクで実際に起こっている現象は

1. がんの発生率が、急増したこと。
2. 先天性異常を持って生まれてくる子どもや流産が増えていること。
3. 原因が特定できない病気、神経疾患、筋疾患、腎不全が増えていること。
4. 1991年以降、不可思議ながん発症の現象が起こっていること。
 - (1) 家族ぐるみで同時にがんを発症する
 - (2) 同時に2つの違ったタイプのがんを発症する患者が増えた。
 - (3) 同時に3つの違ったタイプのがんを発症する患者もいる。
 - (4) 本来なら、成人や高齢者が発症する種類のがんが若い人や子どもにも発症している。
5. がんによる死亡が増えていること。

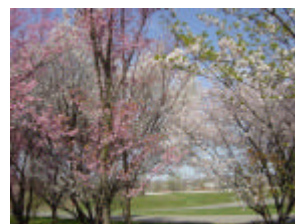
もう一つの大切な役目は「伝えること」

セイブ・イラクチルドレンのもう一つの大切な役目、それは、日本に住む私たちに、イラクの「現実」を「伝えること」です。今回見せていただいたのは、イラク人医師によって託されたデータです。通常マスメディアでは届かない情報です。目を覆いたくなるような写真もたくさんありました。

以前、ジャーナリストの森住卓さんが先天性異常児の出産に立ち会ったとき、ドクターから言われたそうです。「この子の写真を撮り、それを伝えることがこの子の生きた証なのです。目を覆ってばかりしないで、写真を撮ってください。伝えてください。それがあなたの仕事です。」

そして今、日本に住む私たち1人ひとりに託された責任の大きさを感じます。

私たちは、小さな命を守るために、何ができるのでしょうか？



講演【桜とその国際交流】

米国国立樹木園園長 トーマス・イライアス氏

(尾崎号堂生誕祭の作文コンクール表彰式に日米親善交流のため来日されました。)

すばらしい天気の日で伊勢の皆さんと特に表彰される中学、小学生の皆さんとお会いでき非常に光栄に思っています。

今日は桜の木から何を学べるかと言うことを話します。

学ぶことは学校だけではなく、周りの自然や動物、植物からも多くあると言うことです。

桜の木というと、日本独自のものであると考えるかもしれませんが。実際は、韓国、中国、北米、ヨーロッパに広く存在しております。桜の木の高さも世界には色々あり、高いものや、低いもの、日本のように管理されて植えられているものや、自然生えで地面に生えつくばる低木もあります。

地球上には、花だけを楽しむだけではなく、例えば、道具として、また家具としてその木材を使用

しています。また、桜は私たちに食べ物を提供してくれています。さくらんぼとして、黒いや黄色、そして甘いものやすっぱいものも色々あります。桜の木は、野生の動物、鳥たちに、棲みかや餌にもなっています。美しい春を告げる桜や、また、秋に咲く桜もあります。

桜と同じように地球には色々な民族、階層の人達が住んでいます。桜の花は、春を告げる象徴と同時に、世界の平和のシンボルにもなっています。

1912年、当時の尾崎東京市長が3000本の桜の木をワシントン市に贈呈されました。その花の贈呈がきっかけとなって全米桜祭りの開催が現在に至り、アメリカでは殆どの方が日本から桜が送られたことを知っているし、同時に尾崎弔堂の名も日本と米国との親善の架け橋になっていることも知っています。桜の木の種々の種類と同様に、地球には様々な人種、職種の人達が住んでいます。大事なことは、私たちが他と自分が違うことを知り、違いを理解してお互いに尊敬しあうことを知ることです。

昔、尾崎先生は日本だけで平和とか憲法を説くのではなく、世界に向かって平和な世界を作ろうと運動なさった方です。皆さんの中からも尾崎弔堂と同じような精神を持った人が出てくることを期待します。

私は皆さんに尾崎弔堂50周年の作文コンクールの精神を忘れないように願っています。

ワシントンD.C.は桜の名勝の街ということになっています。ポトマック川の桜は6種類で全米のテレビでも放送され、ワシントンの樹木園には100種類以上の桜が植えられています。私たちは日本のおかげで、害虫に強く、色の好いそして現在の咲く季節より後れて咲くさまざまな桜の研究を行っています。桜の原木は日本からですが、新しい桜を作りその成果を世界中の各地へ送っています。木を楽しむ、愛し国境を越えての人々との交流です。将来若い人達が桜の木を植えて国境を越えて木が果たしてくれた友情を育ててくれることを心から願っています。

(尾崎弔堂記念館にて)

~~~~~

## 編集後記

年の瀬も迫り、アテネでのわが国選手や米・大リーグでの松井選手らの活躍、とりわけイチロー選手の快挙に湧いた反面、度重なる台風来襲による各地の風水害や地震等、天災頻発で被害甚大な方々にはお慰めの言葉もありません。このように厳しい事態を回顧し、すべてこれ天意と謙虚に省みるところはないかと、我々地球上の人類への警告とさえ感じられる思いです。中国の言葉に「旧的不去、新的不来」(古いものがなくなり、改められることがないと新しいもの、望ましいものに改められる余地がない)と言うのがあり、古いもの必ずしも悪と言えるわけもないのですが...

各界に不祥事絶えぬこの時勢に当たり、英国の詩人・アルフレッド・テニスの“*In Memorium*”(彼の親友であった若き秀才の死を悼む追悼の長篇詩集)から少し引きます。(No. CVIの8 stanzasから)

- (ii) Ring out the old, ring in the new,  
Ring, happy bells, across the snow;  
The year is going; let him go,  
Ring out the false, ring in the true.
- (vii) Ring out old shapes of foul disease;  
Ring out the narrowing lush of gold;  
Ring out the thousand wars of old,  
Ring in the thousand years of peace.
- (viii) Ring in the valiant man and free,  
The larger heart, the kindlier hand;  
Ring out the darkness of the land,  
Ring in the Christ that is to be.

「除夜の鐘のなる中、旧年を送り、新年を迎えるに際し、悲しみ、偽り、争い、不振、戦争等の罪悪を払い去り、喜び、真実、寛容、真理、平和、等を迎え入れるべく、救世主をたたえ、迎えん」とうたっています。会員の皆様方に“よきお年を”と念願します。

編集委員：池山、喜多、片山、竹中

顧問：岩本